

MIC Worship Service – 2023.02.12

Title: "Love As A Litmus Test"

Text: Selected Scripture

愛という名のリトマス試験紙

各聖書箇所参照

Introduction

Pastor Charles Swindoll in his book, *Growing Deep in the Christian Life* shared this story:

アメリカのスウィンドル牧師は、著書『*Growing Deep in the Christian Life*』の中で、次のような話を紹介しています。

Several years ago, in Long Beach, California, a fellow went into a fried chicken place and bought a couple of chicken dinners for himself and his date late one afternoon. The young woman at the counter inadvertently gave him the proceeds from the day -- a whole bag of money (much of it cash) instead of fried chicken!

After driving to their picnic site, the two of them sat down to open the meal and enjoy some chicken together. They discovered a whole lot more than chicken--over \$800!

But he was unusual. He quickly put the money back in the bag. They got back into the car and drove all the way back. Mr. Clean got out, walked in, and became an instant hero. By then the manager was frantic. The guy with the bag of money looked the manager in the eye and said, "I want you to know I came by to get a couple of chicken dinners and wound up with all this money. Here."

Well, the manager was thrilled to death. He said, "Oh, great, let me call the newspaper. I'm gonna have your picture put in the local newspaper. You're the most honest man I've heard of." To which they guy quickly responded, "Oh no, no, don't do that!" Then he leaned closer and whispered, "You see, the woman I'm with is not my wife...she's uh, somebody else's wife."

数年前、カリフォルニアのロングビーチで、ある男がフライドチキンの店に入り、自分と同伴者のためにディナー用のチキンを2つ買いました。その店のカウンターで働いていた若い女性は、うっかりしてその日の売上をお釣りととして、その男に渡してしまったのです。

その男はその後、自分の同伴者と車でピクニックに行き、2人でチキンを食べていました。すると、その男は、このチキンの釣り銭が800ドルもあったことに気がついたのです。

しかし、普通なら黙っているところでしょうが、その男は、そのお金をすぐに袋に戻し、同伴者と二人で車に乗り込み、わざわざそのチキンのお店に戻ったのです。その正義感の強い男は車から降り、まるでヒーローのように店の中に入っていました。その時、店長は必死でなくなったお金を探していました。その男は、お金の入った袋を持って、店長の目を見て次のように言いました。「僕はただディナーのチキンを2つほど買いに来たつもりだったのに、こんなにたくさんお金を渡されてしまったんだ。ほら。」と言いました。

店長は死ぬほど喜んで、その男に、「ありがとうございます。お礼に新聞社に電話して、あなたの写真を地元の新聞に載せましょう。あなたは私が今まで出会った中で最も正直な人です。」と言いました。それに対して、その男はすぐに、「いやいや、そんなことしないでください。」と答え、それからその男は店長に近づき小声でささやいた。「そんなことされると困るんです、なぜって、今一緒にいる女性は僕の妻じゃないんですよ、、。彼女は、実は、人妻なんです。」

It's natural for us to celebrate good deeds and acts that are admirable (*returning the money that's not his*). It's also natural for us to disdain or even condemn acts of dishonesty and hypocrisy in others (*cheating in a relationship*).

善行や、立派な行為、この話の場合、自分のものでないお金を返すと言うような立派な行為を称えるのは人として自然なことです。また、他人の不誠実な行為や偽善的な行為、この場合、浮気のような行為を軽蔑し、非難するのも自然なことでしょう。

Yet, how often do we face up to our **own** blindness, to our own errors and failures with brutal honesty? Our Lord Jesus Christ teaches in...

しかし、私たちは自分の盲点や自分の誤りや失敗を、どれだけ正直に直視できるでしょうか。私たちの主イエス・キリストは、マタイの福音書7章で、次のように教えておられます。

Matthew 7:3-5 - ³“Why do you look at the speck of sawdust in your brother’s eye and pay no attention to the plank in your own eye? ⁴How can you say to your brother, ‘Let me take the speck out of your eye,’ when all the time there is a plank in your own eye? ⁵You hypocrite, **first take the plank out of your own eye**, and then you will see clearly to remove the speck from your brother’s eye.”

マタイの福音書7章3-5節—3 また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。

4 兄弟に向かって、『あなたの目のちりを取らせてください』などとどうして言うのですか。見なさい。自分の目には梁があるではありませんか。

5 偽善者よ。**まず自分の目から梁を取りのけなさい**。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。

There is our main challenge, Brethren. That is, “**taking the plank out of our own eye**”. We have to take off our blinders. Blinders that have been determined by our culture, by our own biases and our own proud heart.

兄弟姉妹の皆さん、ここに私たちの最大の課題が書かれています。それは、「**自分の目から梁を取る**」ということです。私たちは、まず自分の目隠しを外さなければなりません。目隠しとは、私たちの文化や私たち自身の偏見、私たち自身の高慢な心によって物事を判断してしまうことを目隠しと言っているのです。

But, how? How do we *take the plank out of your own eye*? This calls for discernment. We need the Holy Spirit’s help to expose us to the truth of His Word. We need to test our motivations and actions. We need to repent of our sins!

では、どうやって目隠しを取り除くことができるのでしょうか？ どうすれば、自分の目から梁を取り除くことができるのでしょうか？ それには、私たちに、識別する力が必要になります。私たちは、聖霊の助けによって、御言葉の真理に触れる必要があるのです。すなわち、自分の行動とその動機を聞き正して試みしてみる必要があるのです。そして私たちは、自分の罪を悔い改める必要があるのです。

ILLUSTRATION: Many years ago when I was a student, I learned a simple science experiment called, “a *litmus test*” by using a litmus paper and several liquid samples or reagents. In Chemistry, a *litmus test* is simple test for the *acidity* or *alkalinity* of a substance, using litmus paper.

昔、学生時代にリトマス試験紙と試薬を使った簡単な理科の実験を習ったことがあります。それは、リトマス試験紙を使って、物質の酸性度やアルカリ度を調べるという簡単な化学の試験でした。

Figuratively, a *litmus test* is any test which produces a decisive result by measuring a single indicator. Today, I would like to propose that **Love is a Litmus Test** of both our Christian actions and motivations. Love is the single indicator to reveal the quality of our Christian character and the validity of our claim as such.

リトマス試験紙とは、一つの指示薬を測定することによって、絶対的な結果を得ることができるという試験方法です。今日、私がお話ししたいのは、「愛」こそがリトマス試験紙であり、私たちクリスチャンの行動とその動機を試してくれるのが『愛』であるということなのです。すなわち、『愛』は、私たちがクリスチャンとしてふさわしい行動をしているかどうか、また、私たちがクリスチャンとして正しいことを言っているのかを試す唯一の指示薬だと言うことなのです。

それでは、今から、『愛によって試されること』について書かれている聖書箇所を見ていきましょう。

I. Love is a litmus test of true discipleship – John 13:35

35 By this everyone will know that you are my disciples, if you love one another.

まず初めに、『愛によって、真の弟子であるかどうかを試される』ことについてお話ししましょう。

I. 愛は、真の弟子であるかどうかを調べるリトマス試験紙—ヨハネの福音書13章35節

35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

A disciple is both a learner and a follower. Learning from Jesus means embracing Him and His teachings. It is following in His footsteps and obeying His commands. He commands us -- His followers -- to **love one another**.

弟子とは、学習者であると同時に従者でもあります。イエスから学ぶとは、イエスとその教えを受け入れることなのです。それは、イエスの足跡をたどり、イエスの命令に従うということです。イエス様は私たちに、つまりイエス様に従う者たちに、互いに愛し合うように命じておられます。

The commandment to love was not new. In the Old Testament (OT), we read in...

「愛しなさい」という戒めは、新しいものではありませんでした。旧約聖書の申命記とレビ記には、愛することについて、次のように書かれています。

Deuteronomy 6:5 - Love the Lord your God with all your heart and with all your soul and with all your strength.

申命記6章5節—5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

Leviticus 19:18 - “Do not seek revenge or bear a grudge against anyone among your people, but love your neighbor as yourself. I am the Lord.”

レビ記19章18節—18 復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。わたしは主である。

However, Jesus' words concerning **love** presented a distinctly **new standard**. It is a sacrificial love modeled after His love and it doesn't come from self-effort. It is the fruit of the Holy Spirit's work in us.

しかし、愛に関するイエスの言葉は、明らかに『愛の新しい基準』を示しています。それはイエスの愛に倣った（ならった）犠牲的な愛であり、そのような愛は自己の努力によって得られるものではありません。そのような犠牲的な愛は、聖霊が私たちのうちに働いてくださる実なのです。その聖霊の実である『愛』のことが、ヨハネの福音書とガラテヤ人への手紙に書かれています。

John 15:12 – “My command is this: Love each other as I have loved you.”

ヨハネの福音書 15章 12節—12 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。

Galatians 5:22 - But the fruit of the Spirit is love, joy, peace, forbearance, kindness, goodness, faithfulness...

ガラテヤ人への手紙 5章 22節—22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、

Our Lord Jesus Christ has other things to say about discipleship, like denying oneself and carrying his own cross daily. But, the primary test, the *litmus test* of being His disciple, is one's love for others especially, his fellow believers.

私たちの主イエス・キリストは、弟子であると言うことは、『自分を否定し、日々自分の十字架を背負うことである』とおっしゃっています。しかし、主の弟子であることの第一のテストであるリトマス試験紙は、他者、特に同胞である他の信者に対する愛が試されます。

APPLICATION: How is our love expressed for one another? Will outsiders recognize the authenticity of our faith in Jesus by our love for our fellow believers?

では、私たちの愛はどのように表現されるのでしょうか？私たちが同胞への愛を見せることによって、他の人々は私たちのイエスへの信仰が本物であることがわかるのでしょうか？

II. Love is a litmus test of genuine service – John 21:15

¹⁵ When they had finished eating, Jesus said to Simon Peter, “Simon son of John, do you love me more than these?” “Yes, Lord,” he said, “you know that I love you.” Jesus said, “Feed my lambs.”

では次に、『愛によって、真の奉仕であるかどうか試される』ことについてお話しします。

II. 愛は、真の奉仕のリトマス試験紙—ヨハネの福音書 21章 15節

15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」

- A. When our Lord Jesus asked Peter, “**Do you love me more than these?**” He was probably referring to the fish in verse 11, representing Peter's former job as a fisherman. You might

remember also that he had gone back to fishing while waiting for Jesus to reappear after His resurrection. But, Jesus wanted Simon Peter to love Him above all else as to forsake all that he was familiar with and be exclusively devoted to being **“a fisher of men”** (Matthew 4:19).

A. 主イエスがペテロに『この人たち以上に、わたしを愛しますか』と問われたとき、11節では、ペテロのかつての漁師としての仕事であった魚のことを引用して表現したのでしょう。皆さんは、イエス様が復活された後、ペテロが、再びイエス様が現れるのを待ちながら漁師の仕事に戻ったことも覚えているかもしれません。しかし、イエス様はシモン・ペテロが、何よりもイエスを愛し慣れ親しんだものをすべて捨てて、「人間をとる漁師」（マタイ4：19）に専心することを望まれたのです。

B. Or, Jesus could be referring to the other disciples, since Peter had claimed he would be more devoted than all the others.

B. あるいは、ペテロは自分のことを、他の誰よりもイエス様に対して献身的であると言っていたので、イエス様は他の弟子たちに対して聞いたのかもしれませんが。

マタイの福音書26章では、ペテロは『この人たち以上に、わたしを愛しますか』と言う問いに次のように答えています。

Matthew 26:33 - Peter replied, **“Even if all fall away on account of you, I never will.”**

マタイの福音書26章33節—33すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」

Whichever it is, Jesus' manner of reinstating Peter into the ministry after he had denied that he knew the Lord three (3) times, is predicated on the **love** that Peter has for Him.

いずれにせよ、三度も主を知らないと否定したペテロを再び聖職に就かせたのは、ペテロの主への愛をイエス様が知っていたからだと思われま。

APPLICATION: Genuine service that is acceptable to God is characterized by love. Our good deeds take a spiritual form when done for the sake of Christ.

神に受け入れられる真の奉仕は、その愛によって特性が生まれます。すなわち、私たちの良い行いは、キリストのために行われるなら、自ずと霊的な形を成していくということなのです。そのことが、マタイの福音書とコロサイ人への手紙に次のように書かれています。

Matthew 25:37-40 - ³⁷“Then the righteous will answer him, ‘Lord, when did we see you hungry and feed you, or thirsty and give you something to drink?’ ³⁸When did we see you a stranger and invite you in, or needing clothes and clothe you?’ ³⁹When did we see you sick or in prison and go to visit you?’ ⁴⁰“**The King will reply, ‘Truly I tell you, whatever you did for one of the least of these brothers and sisters of mine, you did for me.’**”

マタイの福音書25章37-40節—37すると、その正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹なのを見て、食べる物を差し上げ、渇いておられるのを見て、飲ませてあげましたか。38いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なのを見て、着る物を差し上げましたか。39また、いつ、私たちは、あなたのご病気やあなたが牢におられるのを見て、おたづねしましたか。』40すると、王は彼らに答えて言います。

『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』

Colossians 3:23~24 - ²³ *Whatever you do, work at it with all your heart, as working for the Lord, not for human masters, ²⁴ since you know that you will receive an inheritance from the Lord as a reward. It is the Lord Christ you are serving.*

コロサイ人への手紙3章23-24節—23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい。24 あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。

III. Love is a litmus test of speech – 1 Corinthians 13:1

¹ *If I speak in the tongues of men or of angels, but do not have love, I am only a resounding gong or a clanging cymbal.*

また、『言葉によって、愛があるかどうかを試す』ことができます。

III. 愛は言葉のリトマス試験紙—コリント人への手紙第一13章1節

1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。

Spiritual gifts were evident among the Corinthians (See, 1 Cor. 1:7); Christian practices were also subscribed to by many (See, 1 Cor. 11:2).

コリントの人々には霊的な賜物があり（1コリント1:7参照）、多くのコリントの人々はキリスト教の習慣も信仰していました（1コリント11:2参照）。そのことは、コリント人への手紙第一から、うかがえます。

1 Corinthians 1:7 - *Therefore you do not lack any spiritual gift as you eagerly wait for our Lord Jesus Christ to be revealed.*

コリント人への手紙第一1章7節—7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待っています。

1 Corinthians 11:2 - *I praise you for remembering me in everything and for holding to the traditions just as I passed them on to you.*

コリント人への手紙第一11章2節—2 さて、あなたがたは、何かにつけて私を覚え、また、私があなたがに伝えたものを、伝えられたとおりに堅く守っているので、私はあなたがたをほめたいと思います。

But, there's one problem (actually, there were several): *Love was absent.* This caused them to quarrel, displayed selfishness and pride that plagued the church -- demonstrably, in the area of spiritual gifts, including the gift of speaking in tongues. The ability to speak in tongues (languages) was supernaturally given by the Holy Spirit and they considered it as more special than the other less attention-getting gifts (e.g., hospitality, giving and showing mercy).

しかし、そのように霊的なコリントの人々にも、1つだけ問題がありました（実際は問題はいくつかありましたが、）。コリントの人々には、愛が欠けていたのです。そのため、彼らは喧嘩をし、利己主義と高慢を見せ、教会を悩ませていました。そのことは、異言を話すことを含む霊的な賜物の分野で顕著に見られたのでした。異言を話すと言う能力は聖霊によって超自然的に与えられたものであり、コリントの人々は、もてなし、与え、あわれみを示すなどの、

他のあまり注目されない賜物より異言のことを特別な賜物として考えていたのです。

APPLICATION: Instead of selfishly and jealously pursuing showy gifts that they don't have, believers should seek the greatest thing of all – **love for each other**. Otherwise, they'll just be making noise like **“a resounding gong or a clanging cymbal”** that are not in harmony with the other instruments in an orchestra. As such, they call attention to themselves, and can be distracting and annoying.

キリスト信者は、利己的に執念深く自分にはない派手な賜物を追い求めるてはいけません。キリスト信者は、互いへの愛を求めるべきであり、互いへの愛が最も偉大なものなのです。互いへの愛が無ければ、オーケストラの中で、他の楽器と調和しない「鳴り響く銅鑼（ドラ）や鳴り響くシンバル」のようなただの騒音に過ぎなくなり、自分勝手になり、気が散って迷惑をかけることになるのです。

IV. Love is a litmus test of love to God – 1 John 4:20~21

20 Whoever claims to love God yet hates a brother or sister is a liar. For whoever does not love their brother and sister, whom they have seen, cannot love God, whom they have not seen. 21 And he has given us this command: Anyone who loves God must also love their brother and sister.

最後に、私たちは『神様への愛を試す』こともできます。

IV. 神様への愛を調べるリトマス試験紙—ヨハネの手紙第一4章20-21節

20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽り者です。目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリストから受けています。

These verses summarize the whole of 1 John 4. A claim to love God is a delusion if not accompanied by unselfish love for other Christians. It is often easier for someone to declare his love for God, because that regards a private relationship with an invisible God. But John rightly insists that our claim of loving God is false if we do not also love our brother, and that this love must be seen.

この節は、第一ヨハネ4章の全体を要約しています。私たちの、神を愛しているという主張は、他のクリスチャンに対する私欲の無い愛が伴わなければ妄想に過ぎません。しかしながら、神への愛は目に見え無いし、神との私的な関係であるため、しばしば『神への愛』があると宣言しやすいとも言えます。しかしヨハネは、もし私たちが兄弟を愛さないなら、私たちがいくら神を愛していると主張しても、それは偽りであり、その愛は目に見えるものでなければならぬと正してくれています。

Bible teacher and commentator, David Guzik wrote: **“One may be a spiritual dwarf because one lacks love. One may know the Word, may never miss a service, may pray fervently, and may demonstrate gifts of the Spirit. Yet in it all, that one may be like Cain, offering to God the fruit of his hands and not the fruit of the Spirit.”**

聖書の教師であり注解者であるデービッド・グジックは、『愛がないために、霊的に小さい人物になってしまうことがある』と言っています。『ある信者は、御言葉を知り、礼拝を欠かさず、熱心に祈り、聖霊の賜物を示すことができるかもしれませんが、しかし、その人は、カイン

のように、聖霊の実ではなく、自分が手に入れた実を神に捧げているのかもしれないのです。』と、デービッドは言っています。

Conclusion/Application

In closing, I would like to ask you these questions: *How does one know...*

- *That he is a true disciple of Christ?*
- *That his service is genuinely done for God & that he truly loves God?*
- *That his speech and spiritual gifts are meaningful and Spirit-led?*

最後に、皆さんに、次のような質問をしてみたいと思います。

- 人はどうやって、自分がキリストの真の弟子であることを知ることができるでしょうか？
- 人はどうやって、その奉仕が純粋に神のためになされ、神を本当に愛していると言えるでしょうか？
- 人はどうやって、自分のことばや霊的な賜物が、意味があり、御霊に導かれているのかを知ることができるでしょうか？

The litmus test to all these is LOVE. Being born of God and abiding with Him give us the ability to love. Jesus' true disciples would not only have experienced this supernatural love from God; they would also reflect and demonstrate this sacrificial and Spirit-enabled love toward others.

これらすべての答えを調べることができるリトマス試験紙は、「愛」なのです。神から生まれ、神と共にいることで、私たちは愛することができるようになります。当時のイエスの真の弟子たちは、その神からの超自然的な愛を経験しただけでなく、聖霊によって犠牲的な愛を他の人々に示すことができたのです。

1 John 3:14a – “*We know that we have passed from death to life, because we love each other...*”.

ヨハネの手紙第一 3章 14節を読んで、今日の話締め括りたいと思います。

ヨハネの手紙第一 3章 14節—14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。